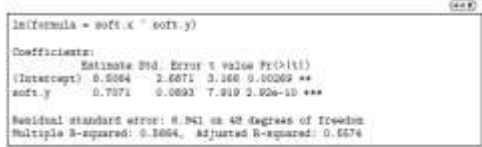


『日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎』正誤表（第1刷）

該当箇所	誤	正
2p 最終行 ～	質的変数のデータを離散データ, 量的変数のデータを連続データともよぶ.	量的変数のデータには, 離散データと連続データがある.
4p 5行目	因子変数や要因という場合もある.	因子または要因とよぶこともある.
4p § 0.2 3行目	この母集団での値	母集団から発生する値
6p 外れ値 2行目	しかし, ある年代について身体データを求める場合に, 男性と女性をまとめて, 身長を平均を求めることは意味がない. これは, 統計量は同じ分布についてのみ意味をもつからである.	しかし, ある年代の身体計測データで男性と女性をまとめることには注意が必要であり, 平均などの統計量は同質の対象について明確な意味をもつ.
7p 1行目	を求めて検討する場合もある.	を求めるほか, 箱ひげ図を用いて検討することもある.
19p 3段落 2行目	0°Cに意味がないため,	正と負の値を取るため,
31p 1.1.7 項2行目	??項参照	第3章参照
48p(2.2.1) 式2行目	西暦年の最後の年	西暦末尾の数字
145p R プログラム		下記参照
150p 問 4.6 表	T1E1	T ₁ E ₁ 以下同様に数字を下付きにする。

145p の訂正

<pre>lm(formula = father ~ son) Coefficients: Estimate Std. Error t value Pr(> t) (Intercept) 100.4068 45.2996 2.217 0.0398 * son 0.3848 0.2638 1.459 0.1619 Residual standard error: 6.779 on 18 degrees of freedom Multiple R-squared: 0.1057, Adjusted R-squared: 0.05604</pre>
--